

## 学 位 論 文 要 旨

研究題目 (注：欧文の場合は、括弧書きで和文も記入すること)

The Impact of Endovascular Therapy in Patients With Large Ischemic Core;  
Sub-Analysis of RESCUE-Japan Registry 2

(広範囲脳虚血性コアを有する患者に対する血管内治療の効果；  
RESCUE-Japan Registry 2 サブ解析)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻

高次神経制御系

脳神経外科学 (指導教授 吉村紳一)

氏 名

垣田寛人

急性脳主幹動脈閉塞症に対する血管内治療の有効性に関するエビデンスが確立し、米国とわが国のガイドラインで強く推奨されている。しかし、現時点では脳虚血コアの範囲が限定的な内頸動脈または中大脳動脈 M1 部閉塞を有する患者、つまり The Alberta Stroke Program Early CT Score (ASPECTS) 6 点以上の患者にのみ推奨されており、広範囲脳虚血コア (ASPECTS 5 点以下) を有する患者における効果は不明である。本研究の目的は大規模データを用いて、その効果を解析することである。

我々が主導したわが国における発症後 24 時間以内の急性脳主幹動脈閉塞症のレジストリ研究 (Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism Japan Registry 2: RESCUE-Japan Registry 2) に登録された 2,420 例から、内頸動脈または中大脳動脈 M1 部閉塞を有し、かつ治療前の非造影 CT または MRI 拡散強調画像にて ASPECTS 0~5 点であった 504 例を抽出した。この 504 例中 172 例 (34.1%) に血管内治療が施行され (血管内治療群)、332 例 (65.9%) には血管内治療が施行されなかった (非血管内治療群)。主要評価項目は 90 日後の転帰良好患者 (modified Rankin Scale 2 以下) の割合とし、安全性評価項目は全脳出血と症候性脳出血 (National Institutes of Health Stroke Scale 4 点以上の悪化) の発生率とした。結果、90 日後の転帰良好患者は非血管内治療群よりも血管内治療群で有意に多く認められ、また全脳出血、症候性脳出血ともに両群で有意差を認めなかった。

本研究では、広範囲脳虚血コアを有する患者においても血管内治療群の転帰が良好であり、出血率も同等であることが示された。しかし、本研究はレジストリ研究の解析であり、治療医の選択バイアスなど多変量解析を行っても完全には除去できない要素があるため、今後のランダム化比較試験が待たれる。